

### ■（163）「津波避難」と「震度4」で被災地取材の厳しさ実感

被災地取材は甘くないとあらためて痛感させられた。着任翌日にチリで巨大地震が発生した。過去に三陸地方を襲ったチリ地震津波を思い出す。津波注意報を受けて開設された避難所を取材していると、体育館のガラス窓が一斉に音を立てた。震度4の地震だった。

4月1日に転任した先は岩手県釜石市。震災から1年間、盛岡市を拠点に記者の指揮を執るデスク業務を続けた。東京に戻る前、最後に泊まった被災地が釜石だった。鉄の町としてかつて栄えた街は鉄筋コンクリート造りの建物も少なくなかった。それらが津波に襲われた結果、鉄骨むき出しの建物が震災1年過ぎてもあちこちに残っていた。解体もなかなか進まず、がれき処理も周辺市町にくらべて遅れていた。それから2年…。中心通り近くの浸水地域には大型ショッピングセンターが完成した。平日昼間でも大型駐車場は「満車」。仮設住宅に住む女性は「靴下も盛岡まで買いに行っていたので助かる」という。

震災から4年目を迎えた。だが、「津波」「地震」は過去の話ではない。再び新たな災害に襲われないという保証はない。緊張感を持ちながら被災地の実情を掘り起こしたい。(山)